

第13回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和5年7月13日（木）

開議 14時 01分

閉議 15時 12分

全員協議会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
【議長・委員外議員】 笹田議長
【事務局】 小寺書記

議 題

- 1 勉強会の振り返りについて
- 2 提言について
- 3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[14 時 01 分 開議]

○西田委員長

ただいまから第13回協働のまちづくり推進特別委員会を始めたい。出席委員は全員である。先般、滋賀大学の横山先生の研修会があり、そのことで委員の所見を出してもらった。そのことを皆から今日報告いただき、そこから提言に結びつく内容等々を徐々に詰めていきたい。今日は勉強会の振り返りと、提言に結びつける柱的なものを協議できたらと思っている。ただ、次の予定もあって限られているので、大体のところまで打ち切って次回は8月9日に行いたいと思っているのでよろしくお願いします。

1 勉強会の振り返りについて

○西田委員長

資料を見てほしい。横山先生の勉強会の中でそれぞれの委員に所感を出してもらっている。研修内容全般に関する所感、浜田市協働のまちづくり推進に取り入れられそうな内容について、市への提言に結びつけたい内容について、その他特記事項ということで、皆から出してもらった意見がこの表である。この表を基に全員から意見をいただきたい。よろしくお願いします。

①研修内容全般に関する所感

○村木委員

協働とは役割分担であり、協働という政策があるわけではなく、全ての公共政策に協働の領域があること、協働には相手がいることを学んだ。あと、協働の究極は行革というか、自治体経営、公民連携、行政評価、行財政改革といったところにつながっていることを学んだ。ただ、最後の中間支援組織については、自分としてもなかなか落ちなかったもので、その部分は個別に学びたいと思っているし、先ほども話があったが先日の島根大学の作野先生の話においてもやはり中間支援という話が出たので、この部分が浜田にとってどうなのか、今もいろいろ考えるところがある。

○村武委員

私も中間支援のところがすごく心に残った。先生が「地域住民だけでは難しく、青写真は役所がつくる」とおっしゃった。まさしくそこではないかと思った。そこがきちんとできれば、まちづくりがもう少し進むのではないかと感じた。

○柳楽委員

まず鮮烈だったのは、補助金をしっかり監査すべきであるという話。これまでも総合交付金などの使い方についてもいろいろ、議会内でも話があったが、その部分もきちんとしていく必要があると感じた。あとは、行政・協働・自治、それぞれの役割をしっかりと確認することも大事で、現状を把握することによって地域に合った支援がしていけるのだろうと思う。まちづくりセンターの指定管理者制度、これは浜田市でも

多分今後検討されるのだと思うが、あまりおすすりめされないような話だったので、研究する必要があると感じた。

○岡本委員

先生の政策の歴史やその考え方は私が知り得ない情報で大変参考になった。中間支援組織について述べられたものから私が感じたことは、不適切な支出のチェックであったり、行政の不介入であったり、いろいろな表現をされる中で、新たに住民に対するいろいろな指導という形で、そういう組織の負担感を誘発させるのではないかと、先生が述べている中間支援組織については重いものとして感じた。

○川神委員

常々協働というのは自分たちの地域を自分たちの力でしっかりと支えながらやっていく、そういった住民の連合体のようなものが最終形かと思っている。それは間違いないことだと思うが、この前の話の中で、協働というのは自助や公助の間に共助があるが、その中でいろいろな形の中間支援がある。私がどうも昔からすっきりしないのは、例えば合併した後でもどの組織とどの組織が同じくらいの役割なのかが非常に分かりにくい。有効的に整理する必要があるのだろうと感じている。良い中間支援組織ができると、最終的には課題解決につながるのだろうと思っているが、我々はどうもたくさんの情報に振り回され過ぎているような気がしてならない。重層的な支援や省庁別のいろいろな話があった。省庁が競うようにいろいろな政策を出しているが基本的に中身は一緒。そういったことも含めて、浜田市の身の丈にあったような中間支援組織とはどのようなものかをしっかりと研究することが、最終的には住民の課題解決につながるかと。中間支援組織がどうあるべきか、真剣に考えていかなければいけない。

余談だが、今回まちなか交流サロンで中間支援組織ができた。そういうのを聞いていると何となく、中間支援組織が十分できるような環境が浜田にあるのか、ファンタズが中間支援組織としてどの程度なのか。我々も何となくスルーしているのだが、もう少し正面からきちんと取り組んでいかなければいけない。

○上野副委員長

いろいろな角度から大変勉強になって良かった。行政からの丸投げ感のない、きめ細かで円滑に事業が進められるような体制が大事だと思った。また、支援策を整えることが最も大切と感じた。

○西田委員長

協働という言葉の意味合いが、今回の研修によって役割分担だと腑に落ちた。また、どういうことが人材育成になるのかということのも、地域の課題解決に必要なことを学ぶことと具体的に言われたのは確かにと。それも自分の考えで具体的に前向きに動く、他者と意識の共有ができること。人材育成はそういうことだなど。また、中間支援組織が本当に機能するかどうかはすごくあった。誰のための中間支援組織なのか。何のためにその組織か。そういった原点は必ず必要と思っている。

先日の勉強会の各委員の所感を聞いて、芦谷委員は何か感じたか。コメントがあればお願いします。

○芦谷委員

皆の意見を聞きながら、地域にもっと主体性を持ってもらう。行政がまちづくりセンターへ、上から下へという感じで。あれが逆にならないといけない。住民が、地域が主体的に動くようなことかと感じた。

○西田委員長

では、続けていく。

②浜田市協働のまちづくり推進に取り入れられそうな内容について

○村木委員

町内会・集落・自治会・地区まちづくり委員会・地域協議会、それぞれの機能や体系の整理が改めて必要ではないかと。歴史の中や地方自治法に基づく言葉はあるものの、ではそれが浜田ではどうなのか。地域協議会の話で、自治法に基づくものと浜田のオリジナルのものがどのように関わっているかを確認する必要がある。そういったところが入れられないかと思っている。

あとやはり地域診断ということで、地域を把握するのは大事だと思っている。それを共有するためにも地域計画書の策定。決して分厚いものでなくても良い。そういったことが必要なのではないかと思う。一つの方法として、棚卸しシートはとても興味深いと思っているし、自分の自治会で重ねてみた。ただ、現在浜田市が行っている協働のまちづくり推進計画の評価検証との兼ね合いも考えてみる必要があると思った。

○村武委員

中間支援組織が浜田市においてはまちづくりコーディネーターだと思うのだが、役割を明確化しないといけないのではと思っている。それと未来づくりキャンパス、地域資源活用塾という話があったが、人材育成の学びの場は本当に大切なことだと思う。そして、地域の活動棚卸しシート。浜田市でどこまでできるかもあるが、これを効果的にしていくことは難しいかもしれないが、こういう視点は持たねばいけないと感じた。

○柳楽委員

公共私役割整理、まずはどういう状況なのかをきっちり把握するのが大事だと思う。厳しいことも含めて、地域担当制職員が厳しいことを言うのはなかなか難しい状況だと、先生の話の中にもあったが、そういったことも含めて指導・助言できる地域担当職員の配置も必要なかと思う。

中間支援組織といったものもあれば良いと思うし、課題解決のためには人材育成が大事ということで、地域に必要な学びの提供も必要。先ほどから出ている棚卸しシートについては、地域ごとの現状をしっかりと把握するという意味では本当に大事なことだったので、取り入れられれば良いと思う。

○岡本委員

この4月から私は片庭5町内の町内会長になった。いろいろ推進する中で、防災訓練や一斉清掃などいろいろな活動を通して2回ほど集会をしたところ、35世帯のうち3分

の1しか参加がなかった。先生の資料を見ながら自分の中で文言を整理しながら挙げた。

1番目には加入率。町内会に参加してない、なぜ参加しないか、負担感がなかったり意識がなかったりということがあった。これを何とかしなければいけない。

それから担い手不足。若い世代が増えたのでぜひ町内会を開きたいということで2回ほどしたが、いろいろな事業に参加している人もいるし、子育て世代は忙しいので、そういう人たちの参加がなかなか難しい。ということは次世代の参画を促すための解決策が要るのだろうと思った。

3点目は役員が多薦。私は30歳からずっと町内会長の役割が回ってくるが、ここ15年くらいは3人の役員が2年交代でずっと固定化してきていた。それはまずいということで、来年から新しい世代に経験してもらおう作戦に入った。固定化がまずいと思ったのと、私たちが民主的でない主導的な形でやってきたことの反省も踏まえて、解決策を求めていかないと、小単位の町内会でも盛り上げることが難しい。この辺から解決策に取り入れる必要があると思った。

○川神委員

中間支援組織、行政も一緒に協働のまちづくりを進めているが、いろいろな話を聞いていると、我々の一番身近な組織は町内組織だったり、何らかの中間支援組織的なものに対して関わりを持ったり持たなかったりがあるのだろう。本当に浜田に必要な中間支援組織とは何なのだろうか、行政も含めて一緒に求めていくことが大きな課題だと感じている。

○上野副委員長

既存組織の見直しや中身のスクラップアンドビルドが必要だという言い方をされた。確かに中山間にいるとだんだん人口が減り、若い人は仕事が忙しくなかなかいろいろなことを手伝ってもらえない。昔のままを引き継いでそれに加えるのではなく、無駄を整理していかないと誰も寄り付かない気がした。

○西田副委員長

棚卸しシートの活用の仕方だが、地域においては地域内での活動棚卸しシートを作成し整理整頓する。市においては市の事業の棚卸しシートを作成して活用する。また、これは市も地域もだが、制度疲労、疲弊している組織を見直していく。そしてアンケートは地域の実態をあぶり出したものでないといけない。そういったことは協働のまちづくり推進に取り入れられそうな中身だという気がした。

芦谷委員、またコメントをお願いします。

○芦谷委員

地域が操り人形で、行政が上からいろいろな課で。地域の人形はやることがばらばら。結局は、縦割りを排して市が一本になって、地域に対してお願いなり支援をする体制が必要だと思った。

③市への提言に結びつけたい内容について

○村木委員

まちづくりにおける人材育成、先生の回答に尽きると思っている。近江八幡の事例が出て、未来づくりキャンパス、地域資源活用塾、残念ながら予算が付かなくなっていることはあったが、近江八幡を調べたらやはり生涯学習の形で推進計画を定期的に見直している。そういった学びを意識しているまちなのだと思う。やはり生涯学習を意識した計画策定を提言したいと思っているし、さらに大学がある市として大学と連携した学びの提供、まさに先ほどの生涯学習もしかり、まちづくりセンターが企画しているものと大学との連携もあろうかと思う。

浜田の場合、幼保小中高、特別支援、専門学校、大学と全て垂直にある。こういったところを生かした、例えばコミュニティスクールもあるかもしれないが、そういったところの構築も大事だと提言がしたい。

○村武委員

人材育成も当然入れていくべきだと思うが、一番大きいのはやはり協働のまちづくりを進めていく中での行政の役割。言葉的には書いてあるのだが、それを具体的にどのように進めていくのかが、やはり見えてこない。まちづくりコーディネーターの動き、まちづくりセンターの動きなどを見ても感じる。まちづくりコーディネーターの役割は本当に大きいと思っている。地域でのまちづくり組織は今、数はだんだん増えてきているとは思いますが、それに中身が本当に伴っているのかを考えると疑問に感じている。コーディネーターの役割、行政の役割を全体的につくり上げていく、専門的知識を持った方の統括官的な役割を担う人材が必要なのではと感じている。常駐でなく例えば顧問やアドバイザーでも良いかもしれないが、そういった役割が一番必要なのではないかと思っている。

○柳楽委員

まず協働のまちづくり推進計画の具体化という話が先生からあった。これも具体的にどうしていくかが分かりやすい形にすることが必要なかと思う。それから地域担当職員の配置ということで。この担当職員が中心に物事を進めるのではなく、問題があったときにきちんと指摘できる配置の仕方が必要だと思う。

また、まちづくり総合交付金の精査見直し。団体に一律に渡すのではなく、必要な事業、効果のある事業に対して交付金を出していくという考え方がやはり必要と思った。当委員会で触れていたら良いのではと思う。

○岡本委員

私は今実際、旧市内のまちづくりについてコーディネーターと一緒にいろいろな会議を持っている。かなり良い雰囲気でもとまりつつあるのだが、やはり町内規模や環境などで苦戦しているところもある。今後コーディネーターがいつまで続くか分からない。もし中間支援組織に移行していくならその部分に負担感のない、優しく緩やかな、本当に官民協働できるような組織を求めたい。もともとの組織ができてないところへ上から命令を与えても何にもならない。まずは下からきちんとした組織にしていけないといけない。それも現在やっているのは、町内会長と一緒にいるだけで、

下の住民が一緒になっているわけではない。そういうことも含め、もっと支援が要るのだろう。次のステップの中間支援組織があるなら、そこも支援においたものやっ
ていかないと、旧浜田市内はそれほど組織がないと困るところでもないので、そうい
うところにも視点を置きながら提言に結び付けたい。

○川神委員

先ほど言った中間支援組織をどうつくるかに、私はとりあえず絞っている。先日、
大田の研修もあったが、結局いろいろな組織が少しずつ重複しており、本当にその組
織が要るのかを整理したら、もっとスマートに行くのではないかと痛感している。行
政主体と町内会のような地縁組織が自発的に生まれてきたところ、それぞれなくして
良いかという過去に経緯があるのでなくせない。ではどこと一緒にするか、誰がそ
れを仕切るのか、整理すると言っても結局誰が整理するのか、非常に難しい。基本
的に行政が音頭を取ってやるのも難しい、では住民が意識を持てるかという、それ
だけの意識を持っている人間が少ない。そうすると最終的には組織を整理統合する
には、官民がどうやって一つのテーブルで議論して、望ましい中間支援組織につ
いて意見を出しながら進めていかないと、皆が参加しやすい、敷居を低い中間
支援組織にはならないと思っている。中間支援組織の整理の仕方、話の進め方につ
いて、しっかり提言していかないといけないのではないかと
思っている。

○上野副委員長

コーディネーターとの意見交換会や、普段出会って話をするときを感じることは、
今までやってきてうまくいったことを、市内のまだしっかりできてないところへ、
自分たちがやってきたことを利用して成功させたい気持ちがまだある気がした。
郡部と市内とはまた違うと思うし、もっとコーディネーターの人に支援などを
してあげないと、このまま自分らがいつまでいるか分からないなどと思われ
ることもあろうかと思うし、うまくいなくて投げやりな気持ちになってもら
っても困るので、もっとそこへ力を入れていただきたい。

○西田委員長

提言に結び付けたい内容、最終的にはいろいろな地域内のもろもろの改革。
単刀直入には新しい地域担当制度。これまでの地域担当制度も踏まえて、
新たに緩やかに、地域によっても違って良いという感じの、無理のない
浜田方式地域担当制度のようなものが構築できないか
と思っている。

もう一つは、人材育成は学びというのがあったので、そういう面では
それぞれ市民一人一人の、人生の終末を迎えるまで学び続けるのが
大事であり、そういう意味では生涯学習都市宣言くらいはして、
一人一人が生涯前向きに学んでいこうという意識付け
が必要なのではないか
と思っている。

○芦谷委員

行政縦割りの打破と、先ほどはばらばらの操り人形と言ったが、川神委員が
言われたように全市統一的な形なのである。振り返ってみると行政が
ボールを握っている行政連絡員、地域協議会、まちづくり推進委員会、
連合自治会、地区社会福祉協議会、

これは全部行政がどうにでもできる。したがってそこを全市統一することかと思った。

④その他特記事項

○村木委員

この特別委員会発足以来、取組課題として私自身、中山間地域の活性化のための共通事業、5年10億円、自治区制度があるときにまちづくり振興基金としてあったものをまた再編して、令和3年4月からある。行政が担うべきものの一つだと思っているので、ではそれが令和8年度からどのようになるのか。一般財源化しないところですごく危機感を持っているので、その辺を調査研究する必要があると書いた。

そして改めて協働とはというところで、横山先生は志縁という言葉は使わず目的やテーマ型と言われた。作野先生は志縁と書いていた。まさに行政と地縁と志縁と企業という正四面体の役割分担が、協働には改めて大事なのかと思った。特に横山先生は地縁をしっかりしていきたいと言われたのが心に残っている。

あと、市の行革分野で行政が今地域に依頼していること。役が多いだとか。私自身も岡本委員が言われた、役が多いとかなり手がないとか、町内会・自治会の意義といったところは大事だと思っているが、今ちょうど役の洗い出しをしていると聞いているので、執行部においても事務事業の見直し・評価ということで、横山先生の話聞いてみたらどうかと思った。

最後に、現在、浜田市協働推進本部が立ち上がっている。そこには協働推進委員が任命された人がいて、その方々の活動、推進体制の独自の調査研究が必要と思った。

先般の作野先生の話で改めて、地域にあるべきビジョン、これは私が現職のときに当時の議員からも、地域のあるべき姿・ビジョンは示す必要があると。

○川神委員

棚卸しはとても大事なことだし、担当課はそういうことはしてないといった話もあったので、良いことはどんどん取り入れて、あまり難しく考えすぎると袋小路から出られなくなるので、もう少しフラットに、できることから取り入れたらどうかと思った。棚卸しは一つ一つの業務について本当に要るか要らないかを行政にやっていただきたいし、議会もそういう感覚を持たないといけないのだろうと思った。

○西田委員長

地域協議会が市から言われる事業報告なりにその場で意見は言うのだが、住民代表の議員感覚の地域協議会であるなら、先生の資料にもあったが、具申権、市長に対して市議会議員と同様な、報告を聞いてその時の意見だけを言うのではなく、逆に市に対してもっと強く言える具申権を発揮するべきだと、以前から思っていた。議員だけでなく地域協議会もそういった権限があるので、しっかりそれを発揮してほしい。まちづくりセンターにあまり過度の負担を掛けないように。市はまちづくりセンターに大体丸投げというか、いろいろな事業にしてもまちづくりセンターを通すようにして、まちづくりセンターにかなり負担感があるので、その辺は住民意識の底上げも大事だし、行政もまちづくりセンターや住民のことをよく考えていただく。住民自

治・団体自治との意識のバランスは大事だと思った。

勉強会を終えて皆から出してもらった所感について意見を出してもらったが、全体を通じてもう一言ある方はいないか。

○村武委員

まちづくりセンターが拠点となってまちづくりを進めていくことになっているが、浜田地域においては一つのまちづくりセンターが抱える範囲が大きすぎる。浜田地域以外のところのまちづくりは結構進んでいると思うが、それがなぜか考えたときに、まちづくりセンターの範囲が小さいのではと思っている。先日はまだ議会だよりの市民対談で今福まちづくり委員会の話を聞きに行った。その際、今福まちづくりセンターは公民館の時代から、住民とまちづくり組織がすごく密接に関わっているし、住民の数が少ないためセンター職員と住民の関わり方がとても深かった。浜田地域のまちづくりセンターの範囲も少し検討する必要があるのでは。もし簡単に範囲を変えられないなら、まちづくりをどのように進めていくのかをもう少し明確にしてほしいと思っている。

○西田委員長

地域ごとに意識の温度差もあるが、まちづくりセンターのエリア差も相当あるので、整理がもう少しできれば良いとは思う。ほかに全体を通じての意見はないか。先ほどから出された意見の中に、共通項目や言葉がかなりあったような気がする。それらを整理していくと、だんだんと焦点に近づくような項目が出てくるようにも感じた。

○岡本委員

3番におのおのの委員から、提言に結びつけたい内容について発言が出た。村木委員は人材育成、地域課題解決に必要な知識やスキル・ノウハウを学ぶ機会を提供すると言われ、私もすごく同感である。どこかに大きなリーダーがいないと前に進まないのかとも思う。また、コーディネーターの今後の支援のあり方、サポートの仕方が大事だろう。そういう観点から、これが中間支援組織なのかという意見を出させてもらったし、川神委員が言われたが、民間と行政との真剣な議論をやってないと思っているので、当然そのようなこと。それから、柳楽委員や委員長からは地域担当制の話が出た。そういうものを含めて、生涯学習宣言都市もそうだが、これの中にかかなり集まってきているように思う。これが次の話合いの課題かと思っている。

○西田委員長

少しずついろいろなものを出してもらった中から固まった部分が少しずつ出てきているのではないかと思う。まちづくり委員会組織を一生懸命つくろうと努力されているところと、すでにまちづくり委員会が相当先に進んでいるところもある。地域性にもかなり違いがある。浜田地域と他の4地域。その辺について委員に何か考えがあれば聞かせてほしい。

○岡本委員

その受取を浜田地域からすると、同じように形にしようというのは、無理だと思う。世帯数も環境も違う、住民の考え方も違う。アパートの住人と元からいる住民、アパ

一トの住人は全然関与しない。そういうところを持っている地域は、旧郡部のようなまちづくりにはなり得ない。昔から住んでいる人だけではないし新たに転入された方もいる。新たな方は町内会に参画していない。ある程度の目標として理解はするが、そこを同じようにやろうというのは、無理があると思っている。

○西田委員長

おっしゃるとおりだと思います。

○村武委員

私も岡本委員が言われるように、全て同じ形にというのは難しいと思う。同じ形でなくてもその地域の課題を住民が考えて何か活動する、取り組んでいくのが大切だと思う。全て部会制にしないといけないといったようなことは、なくて良いのかと思うが、地域課題をどうやって住民に考えてもらい、それを進めていくといった動き方というか。形が少し違うかもしれないが進み方は同じなのかと思う。

○西田委員長

皆いろいろな感想をお持ちだと思うし、現状についてもいろいろ考えがあると思う。もう各地域は育っているのだから、それを今からどうこうするのも大変だと思う。それなりに今の状態から少しでも地域ごとに良くなる方向に何か統一できるものがあるって、それに向けて地域なりに良くなる方向へ向かうのが良い気がする。

2 提言について

○西田委員長

提言の柱の案が出ているが、これについては事務局と正副委員長とでたたき台ということで、柱になるものをこちらで一方的に考えたものである。役割の明確化、人材育成、意識付けなど書いてあるが、これを柱として残しても良いし、新たに今日出てきた意見の中で柱になるような大事な案件については意見を出してもらいたい。役割の整理ということも随分出ていたし、中間支援組織の役割や組織の見直しもすごく重要なことではないかと思っている。将来の提言に向けての柱にはこれを入れたほうが良いといった考えがあれば、ぜひ出してほしい。

○岡本委員

書かれているのを見ると確かに、十分提言の柱になるのだろうと思う。委員長が言われるように、例えば人材育成なら子ども会などいろいろあるのだろう。それに伴う組織等もある。次回にはそれも含めて提言になるような案を出したい。

○西田委員長

資料2は提言の柱、一応案でこちらが出しているのだが。皆から意見を伺いたい。時間の許す範囲内で出してもらい、それをまとめて次回に肉付けしていきたい。

○小寺書記

補足したい。役割の明確化については芦谷委員の言われるように、いろいろな役割が地域にあって担い手不足もある中で、一本化が必要なのではないかという意見があったところではある。ただ先ほどの議論の中でも、浜田は浜田のやり方が、ほかの4

地域には4地域に適した進め方があるのではないかという意見もあったと思うので、そこは委員間でも擦り合わせが必要かと思っている。

二つ目の人材育成については、協働のまちづくりを進めるに当たり人材育成が必要だというのは随分前から皆の共通認識だと思う。どういった人材育成が必要なのかというところで、地域課題が解決できるような、地域に応じたものを行政が提供していくと言われていたと思うので、そういったところを人材育成の柱として提言ができるのではと正副委員長と話していた。

協働の意識付けについてはまちづくりセンターにヒアリングに行かれた際、協働の意識が薄いのではというところが出ていたと思う。そこに対して協働を担う分野それぞれに対して意識付けしていくことが必要なのではないかというところだと思っている。市民・行政・企業も含めて。ただ企業は今まであまり出てきてなかった部分かと思うので、委員間でもしっかり話をしていけないといけないと思っている。

4番目、まちづくりコーディネーターの強化・継続としているが、先般の勉強会の中で中間支援組織のことを言われていた。建物はなくても機能がしっかりしているよという話もあった。ファンタスの話も出たが、まちづくりコーディネーターがそれを担うことも考えられるのではないかと正副委員長と話した。今までまちづくりコーディネーターは地区まちづくり推進委員会の設立や地域での発展的な活動に注力されているので、そういうことをしっかりもっとやっていくことがまちづくりにつながっていく。まちづくりコーディネーターがいつまで続くか不透明な部分もあるかと思うので、そこへもう少し人を充てるのか、予算を付けるのか、期間を継続させるのか、といったことが言えるのではないかと、正副委員長と協議した。

最後、議会として協働をどうしていくか。提言とは少し違うが、議員としてどのような形で協働のまちづくりに関わっていくかは少し考えておかないといけない部分かと思っている。

この5本を立ててみた。それについてまた委員から意見がいただければと思う。

○村木委員

先ほどの説明の③に企業とある。一応、浜田市の条例における協働のまちづくりの定義には「協働とは市民等及び市が」とある。市民等とは何かというのもきちんと書いてあって、「市民、事業者、及びまちづくり活動団体を言う」となっているので、そう考えると企業は事業者の部分に当てはめられると思う。

○西田委員長

勉強会の中でそういったことがはっきり言われていた。協働のまちづくりも、行政とまちづくり委員会やまちづくりセンターの関わりだけでなく、福祉も産業も入るので、そういった意味では企業も当然入るのだろうと思った。

柱の案について事務局からの説明もあったが、加えたいことなどあれば意見がほしい。

○岡本委員

企業に対してという表現をされているということは、企業に対してどうアクション

するのかをここに表現しているのか。

○小寺書記

協働の意識付けが必要というところで、市民に対してはこういった形があるのでは、行政職員に対してはこういうことをすれば協働意識が深まるのでは、企業に対してはどういったことをしていくべきか、といったような議論が必要という考え方である。

○岡本委員

最近の話を少しすると、今はお宮で夏祭りの時期に当たるが、そういうときに町内は企業に向けても寄附をお願いする。つまり企業もその地域の一団体だという意識はあるが、まちづくりとしてのアクションはない。そういう意味で、やはり企業に意識してもらおう働き掛けが当委員会から必要なのかと、説明を受けながら思った。

○芦谷委員

私も1年限りの町内会長をしている。100世帯あって入っているのは85くらい。あと15世帯にも入ってもらおうとしたのだが、どうしても入ってもらえない。私は思うに、町内会に入っている者と入らない者とで分断され、入らない人には町内会長が広報などを配って回る。町内会費を払って入ってくれと勧誘しても、アパート住人や若い人は無理なので、もうあっさりと、ここに住んでいる人は全員町内会員だと。会費は別として。企業に入ってもらうよりも、とにかくこの地区にいる人は学校だろうと官公庁だろうと企業だろうと店だろうと、皆入ってもらう。金の負担については別途考えることとして、とにかく日々の生活を一緒にやる者は町内会員だと考えないと、入ってもらうのは非常に難しい。

○西田委員長

おっしゃるとおりだと思う。その辺の意識が少し変わるだけで地域は随分変わると思う。草刈りも、自分の家の周りは自分で刈る、隣の家は草を刈らない。あなたの家なのだからあなたが刈れではなく、自分の住んでいる地域がきれいになるのは良いことなので、周りで刈ってあげれば良い。そうすれば地域がきれいになる。ちょっとした考え方なのだと思う。今、芦谷委員はそのように言われた。私もそう思う。

○岡本委員

地域を、企業も含めて皆が住民だと意識させるための手法の一つに、回覧板がある。私の地域は外国人もいるし、店もある。そこも回覧が回る形にはしたほうが良いのかな。そうすれば自分たちも町内に入っているという意識になるだろう。町内会費はともかく、そういう取り決めがあっても良いのかと。

この前プレミアム商品券の申込用紙を持ってくるのに、外国人世帯を世話している事業主から、外国人にもプレミアム商品券をもらえないかと言われた。一応制限がないので町内会長がもらいに行ったら、この用紙をあげるので記入してファックスなりを送ってもらえば申込用紙を送ると。行政側はそこには制限を加えてないのに、我々が町内会という位置付けの中で制限を加えてしまったのかと思う。住民は全部一緒だという意識付けはしたほうが良い。その手法としては回覧もあるだろうし、いろいろなところが回覧を出しているのだから、ああいうものを回していこうという意識付けがあ

っても良いのかと、聞きながら思った。

○芦谷委員

私の地域にはアパートを持つ事業者があって、町内会の勧誘に行ったのだが入らないと言われたので、広報などは私が配りに行っている。企業なども無条件で入ってもらい、防災訓練もごみステーションも一緒に使う。切り口を変えてやらないと、何でもかんでも町内会に入ってくれというのはもう無理かもしれない。

3 その他

○西田委員長

一応提言の柱の案について、今日はこのような感じで置いておいて、また皆それぞれ帰って、先般の勉強会のことも含めて思い出しながら、提言の柱について再度肉付けしたい点があれば次回に伺いたい。

次回は8月9日水曜日の午後1時半から、続きを行いたい。提言についてももう一歩二歩、前進させたいのでよろしく願います。

以上で協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[15 時 12 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久